

広島市健康づくり計画
「元気じゃけんひろしま 21」

最終評価
(概要版)

平成 24 年 3 月
広島市

目 次

第1章 広島市健康づくり計画 「元気じゃけんひろしま21」について……………	1
第2章 最終評価の内容について……………	1
1 評価の方法……………	1
2 評価の進め方……………	1
3 評価の結果……………	2
第3章 次期健康づくり計画の策定に向けて……………	6

第1章 広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21」について

本市では、健康寿命の延伸と生活の質（QOL）の向上を目標とし、「明るく元気なまちづくり」をスローガンとして掲げ、平成14年3月に健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21」（以下、計画という。）を策定しています。

この計画では、市民総ぐるみの健康づくり運動を展開するため、運動の中心組織として、市民、関係団体、関係機関、学識経験者等で構成する「元気じゃけんひろしま21推進会議」（以下、推進会議という。）を設置し、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養・こころの健康づくり」「たばこ」「アルコール」「歯と口の健康」「糖尿病」「循環器病」「がん」の9領域について取組を推進しています。

平成18年度には中間評価を実施して計画の見直しを行い、当初10年間であった計画期間を1年間延長し、最終年度を平成24年度としました。

平成23年度には市民健康づくり生活習慣調査を実施するとともに、計画策定時及び中間評価時に設定した目標の達成状況の分析等を実施することにより、最終評価を行いました。

平成24年度は、最終評価結果及び国の指針等を踏まえ、次期健康づくり計画を策定します。

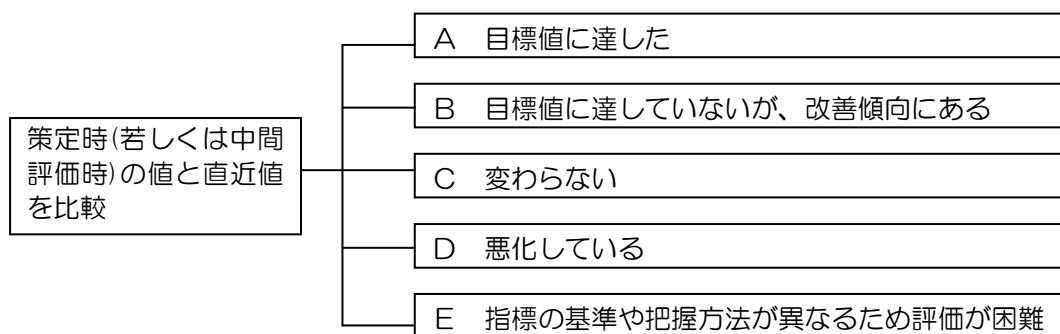
第2章 最終評価の内容について

1 評価の方法

国の評価方法を踏まえ、9領域80の指標について、平成13年度の目標策定時（若しくは平成18年度の中間評価時）と現状を比較することを基本とし、達成状況を評価しています。

なお、直近値は、各種健診データ、人口動態統計、市民健康づくり生活習慣調査（※1）及び市民健康・栄養調査（※2）等から把握しています。

（※1,※2：P6 参照）



2 評価の進め方

- (1) 推進会議内に評価部会を設置し、評価方法等の検討及び評価を行いました。
- (2) 「栄養・食生活」「身体活動・運動」「休養・こころの健康づくり」「たばこ」の4領域については、評価部会での検討結果を推進会議内に設置している4つの部会に諮り、その他の5領域と合わせ、評価部会が最終評価を行いました。
- (3) 最終評価の内容については、推進会議の全体会で諮り、了承を得ました。

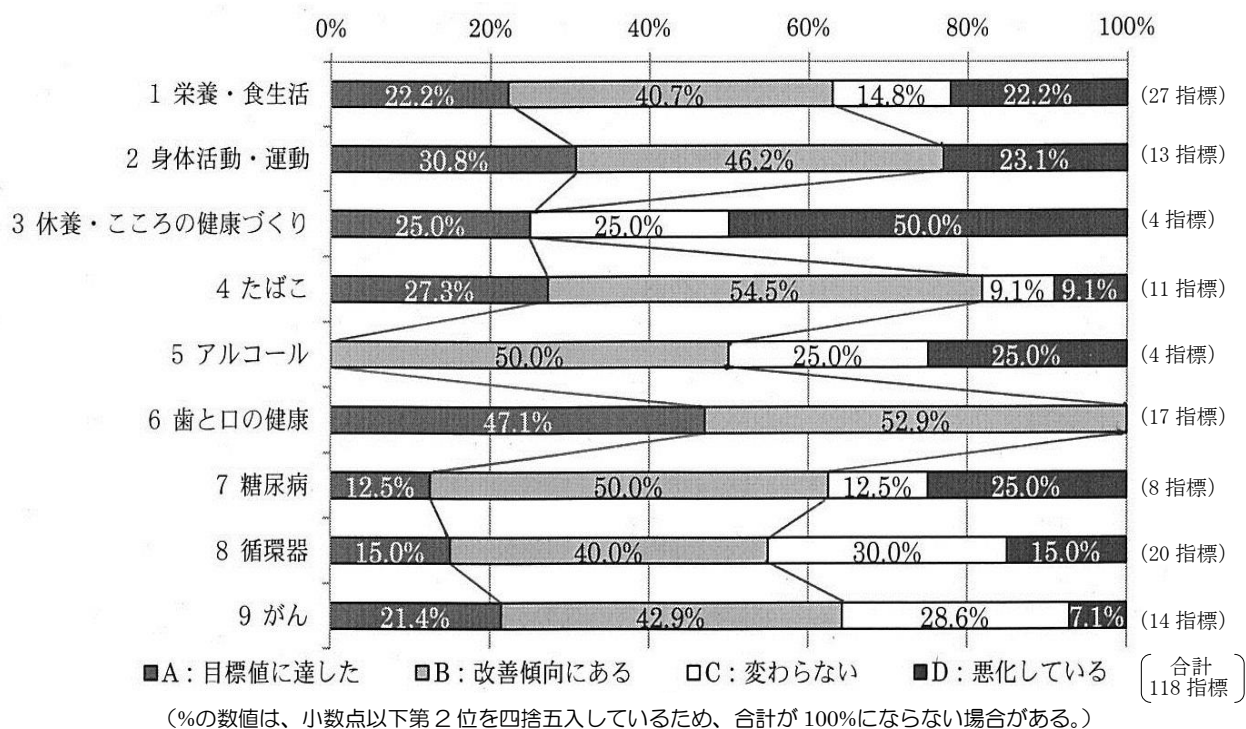
3 評価の結果

計画の9領域80（重複指標を除く）指標のうち、評価を実施した71の指標について達成状況を評価した結果、22(31.0%)の指標が目標値に達しており、「目標値に達していないが改善傾向にある」指標28(39.4%)を合わせると、7割は目標に向けて成果が見られました。

区 分	A (目標値に達した)	B (改善傾向にある)	C (変わらない)	D (悪化している)	小計	E (評価困難)	合計数
領域全体	29 (22.1%)	52 (39.7%)	18 (13.7%)	19 (14.5%)	118 (90.1%)	13 (9.9%)	131 (100%)
(評価困難を除く)	(24.6%)	(44.1%)	(15.3%)	(16.1%)	(100%)	—	—
重複指標を除く	22 (27.5%)	28 (35.0%)	10 (12.5%)	11 (13.8%)	71 (88.8%)	9 (11.3%)	80 (100%)
(評価困難を除く)	(31.0%)	(39.4%)	(14.1%)	(15.5%)	(100%)	—	—

※（ ）内の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(1) 領域ごとの目標達成状況の評価



目標値に達した指標の割合が最も高かった領域は「6 歯と口の健康」(47.1%)であり、目標値に達していないが改善傾向にある指標を合わせると、100%でした。

2番目に目標値に達した指標の割合が高かった領域は「2 身体活動・運動」(30.8%)であり、目標値に達していないが改善傾向にある指標を合わせると、77.0%でした。

3番目に目標値に達した指標の割合が高かった領域は「4 たばこ」(27.3%)であり、目標値に達していないが改善傾向にある指標を合わせると、81.8%でした。

一方、悪化している指標の割合が最も高かった領域は「3 休養・こころの健康づくり」で50.0%でした。

(2) 9領域の主な指標の目標達成状況

1 栄養・食生活

●1日あたりの野菜の摂取量を増やす

	策定時	目標値	直近値	評価
成人の摂取量	279 g	350g 以上	268 g	C

●朝食を欠食する人を減らす

		策定時	目標値	直近値	評価
15～19 歳	男性	16.3%	0%	14.7%	B
	女性	12.1%	0%	4.4%	B
20 歳代	男性	37.2%	15%以下	39.1%	C
30 歳代	男性	31.4%	15%以下	26.3%	B

●外食栄養成分表示を行っている飲食店を増やす

	策定時	目標値	直近値	評価
食生活協賛店	7	700 施設	322	B

【今後の課題】

- 自分の適正体重や食事量を理解できるよう子どもの頃からの徹底した食育を、幼稚園・保育園、学校、家庭、地域が一体となって進め、望ましい生活習慣の定着化を図る必要があります。
- 「食事バランスガイド」等を活用し、20 歳代を中心とした食への関心や朝食摂取、バランスのとれた食事量を認識できる取組を、運動や休養と連動した個人の生活習慣を包括的に捉えたアプローチが必要です。
- また、食品表示についての外食産業やコンビニエンスストア等への働きかけ、地域の人材育成等、健康づくりを広げる仕組み作りが重要です。

2 身体活動・運動

●日常生活における歩数を増やす

		策定時	目標値	直近値	評価
20 歳以上	男性	8740 歩	9700 歩以上	7997 歩	D
	女性	7471 歩	8500 歩以上	7772 歩	C
70 歳以上	男性	6930 歩	8200 歩以上	5626 歩	D
	女性	4267 歩	5500 歩以上	5797 歩	A

●運動習慣のある人の割合を増やす

		策定時	目標値	直近値	評価
20 歳以上	男性	22.1%	32%以上	24.1%	B
	女性	17.2%	27%以上	20.2%	B

【今後の課題】

- 歩数の減少は肥満や生活習慣病発症や高齢者の自立度低下や虚弱の危険因子であるため、「元氣じゃけん体操」や「歩こうや！ひろしま」、「エクササイズガイド」を徹底的に普及させる必要があります。
- 特に、学校における子どもの頃からの運動習慣の確立や、働き盛りの人たちへの通勤時間等を利用したウォーキングの推進等職域における取組を検討する等、行動変容につながる具体的なアプローチが必要です。

3 休養・こころの健康づくり

●睡眠による休養が十分とれていない人の割合を減らす

策定時	目標値	直近値	評価
24.7%	22.0%以下	27.4%	D

●自殺者の数を減らす

策定時	目標値	直近値	評価
224 人	減少	252 人	D

【今後の課題】

- 40、50 歳代の働き盛りを対象とした、ストレスや睡眠、アルコール、うつ病対策と自殺対策を連動させた取り組みについて、地域と職域が連携して検討する必要があります。
- また、うつ病を早期に発見し適切な治療に結びつけるため、かかりつけ医と精神科医との連携を一層強化し、医療体制のさらなる充実や雇用の確保等社会環境の整備が必要です。

4 たばこ

●喫煙率を下げる

		策定時	目標値	直近値	評価
成人	男性	42.1%	21.0%以下	26.9%	B
	女性	11.0%	5.5%以下	7.1%	B
未成年者	男子	15.1%	0%	4.2%	B
	女子	4.7%	0%	1.8%	B
妊産婦	妊婦	—	0%	3.3%	B
	産婦	—	0%	3.7%	B

●禁煙指導できる医療機関の数を増やす

策定時	目標値	直近値	評価
102	増加	463	A

●公共的施設・企業における分煙の実施率を上げる

市役所等の庁舎	策定時	目標値	直近値	評価
	90%	100%	98.4%	B

【今後の課題】

- 喫煙率は低下していますが、禁煙したい人が確実にやめることができる支援や、若い世代や妊産婦への喫煙防止、禁煙について、医療機関や専門学校等関係機関と連携した取組を推進する必要があります。
- 市役所等の庁舎においては、全面禁煙をめざすとともに、公共施設等における受動喫煙防止対策や協賛店の拡大等の環境整備を推進する必要があります。

5 アルコール

●1日3合を超え多量に飲酒する人の割合を減らす

		策定時	目標値	直近値	評価
20歳以上	男性	5.5%	3.4%以下	5.9%	D
	女性	1.1%	0.3%以下	1.6%	D

●未成年者で飲酒する人をなくす

		策定時	目標値	直近値	評価
15～19歳	男性	15.1%	0%	5.3%	B
	女性	13.1%	0%	1.8%	B

【今後の課題】

- 地域と職域が連携して、成人に対し、アルコールに関する正しい知識や適正飲酒についての普及啓発を行うとともに、女性の飲酒対策についても検討する必要があります。
- 特に、多量飲酒については、ストレス等と関連性が高いことから、職の安定や老後の不安解消等、社会環境の改善について対策を講じる必要があります。
- また、未成年者に対し、学校における飲酒防止教育の徹底や販売しない環境づくりが必要です。

6 歯と口の健康

●80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合を増やす

策定時	目標値	直近値	評価
36.2%	44%以上	55.3%	A

●歯間部清掃用器具を使用している人の割合を増やす

		策定時	目標値	直近値	評価
35～44歳	30～39	35.3%	50%以上	41.1%	B
	40～49			42.6%	B
55～64歳	50～59	34.7%	50%以上	50.1%	A
	60～69			49.9%	B

※直近値は、策定時と対象年齢が異なるため参考値

【今後の課題】

- 歯周病は糖尿病や心疾患など全身の病気にも関連しており、本市では歯周病に罹患している人の割合が高いことから、特に若い世代に対し、定期的な歯科健診や歯石除去などの予防処置等を習慣化させるための取組が必要です。
- 幼児期のう蝕予防については、フッ素配合歯磨剤やフッ素洗口など、フッ化物応用に関する知識の普及啓発等を推進する必要があります。

7 糖尿病

8 循環器病

●メタボリックシンドロームの概念を導入した健診・保健指導の受診者数を増やす

	策定時(H20)	目標値	直近値	評価
特定健康診査実施率	13.0%	56%	13.5%	C
特定保健指導実施率	16.7%	36%	33.5%	B

9 が ん

●がん検診の受診率を増やす

	策定時	目標値	直近値	評価
胃がん	7.7%	9.2%以上	8.1%	B
肺がん	11.0%	13.2%以上	12.3%	B
大腸がん	6.1%	7.3%以上	8.4%	A
子宮がん	11.1%	13.3%以上	21.0%	A
乳がん	9.8%	11.8%以上	20.1%	A

【参考】がん検診の受診率は、平成 22 年度から県内統一の算定方法にしており、直近値をその方法で算定すると、胃がん 12.7%、肺がん 21.4%、大腸がん 17.3%、子宮がん 34.0%、乳がん 33.5%になります。

【今後の課題】

- 栄養・食生活領域や身体活動・運動領域等の生活習慣に関する取り組みを着実に推進するとともに、健診による早期発見や、かかりつけ医と専門医の連携強化により、初期段階から適切な治療に結びつけるなど、重症化予防対策に取り組む必要があります。

【今後の課題】

- がんは一次予防が最も重要であることから、がんやがん予防についての正しい知識の普及啓発を図るとともに、検診を受診しやすい環境整備等受診率向上対策を推進する必要があります。

(3) 全体の目標達成状況

健康寿命の延伸と生活の質の向上を目標とし、明るく元気なまちづくりをスローガンとして掲げ、9領域について取り組んだ結果、市民が感じる健康感・充実感についての評価は、下記のとおりになりました。

「生活に満足している人」の割合は、ほぼ目標値に達しており、また、全死亡者に占める「65 歳未満で死亡する人」の割合は、男女とも大きく減少し、目標値に達しています。

一方、「健康状態が良好と感じている人」の割合は、2.0 ポイント増加したものの目標値に達せず、また「60 歳以上で地域活動に参加する人」の割合は 3.6 ポイント減少し、目標値を大きく下回っています。

明るく元気なまちづくりの実現のためには、生涯を通じた健康づくりの推進と地域活動の活性化が不可欠であり、引き続き、関係機関・関係団体が協力し、取組の推進強化を図ります。

指 標		策定時	目標値	直近値	評価
1	「生活に満足している人」の割合	50.5%	70%	69.4%	B
2	「健康状態が良好と感じている人」の割合	80.3%	90%	82.3%	C
3	「60 歳以上で地域活動に参加する人」の割合	36.8%	50%	33.2%	D
4	全死亡者に占める				
	「65 歳未満で死亡する人」の割合				
	男性	30.3%	27%	21.4%	A
	女性	16.6%	15%	11.7%	A

第3章 次期健康づくり計画の策定に向けて

最終評価で把握した「今後の課題」を踏まえるとともに、今後の高齢化の進展や社会経済情勢の変動に伴う健康課題の変化を見据え、「次期広島市健康づくり計画」の策定を行います。

【次期計画の視点】

次期計画については、市民の健康水準の現状や最終評価の結果を踏まえ、国の健康増進計画の方向性等を勘案し、健康に関わる幅広い領域についても留意しながら策定を行います。

また、医師会等の関係団体や地域団体、民間事業者などの意見を聴きながら、市民が主体的に健康づくりに取り組める、より実効性の高い計画を策定します。

最終評価関連調査

※1 市民健康づくり生活習慣調査

- ① 調査地域 広島市全域
- ② 調査対象 住民基本台帳に記載及び外国人登録されている15歳以上の男女
- ③ 標本数 5,200人
- ④ 抽出法 層化無作為抽出
- ⑤ 調査方法 郵送配付—郵送回収
- ⑥ 調査期間 平成23年6月30日（木）～平成23年7月31日（日）
- ⑦ 回収数（率） 回収数 3,046（58.6%） 有効数 2,986（57.4%）

※2 市民健康・栄養調査

- ① 調査地域 広島市内15地区
- ② 調査対象 平成22年国民生活基礎調査の設定単位区より、無作為抽出した世帯及び世帯数
- ③ 標本数 302世帯 770人
- ④ 調査方法 調査員による訪問留め置き
- ⑤ 調査期間 平成22年11月中の1日
- ⑥ 回収数（率） 193世帯（63.9%） 457人（59.4%）

登録番号：広H4-2011-1110

発行年月：平成24年（2012年）3月

広島市健康福祉局保健部保健医療課

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 TEL(082)504-2290 FAX(082)504-2258